

文化財だより

第16号

もくじ

市指定文化財・宝篋印塔など五件を指定	1
昭和61年度・文化財めぐり	3
旧町名表示石柱設置事業	6
文化財標柱設置事業	7
稻井高木地区の板碑分布調査報告	8
銘鑄銭関係史料目録	29
石巻地方民俗民具資料収集目録	30
受贈図書	40
石巻市文化財だより既刊号案内	41

石巻市教育委員会

市指定文化財 宝筐印塔など五件を指定

石巻市教育委員会では、昭和六十一年十二月一日付けて、あらたに有形文化財五件の文化財を指定しました。これによつて石巻市指定文化財は总数十六件となりました。

新しく指定した文化財について、概要を紹介します。

▼宝筐印塔（所在地：湊字牧山七番地 所有者：零羊崎神社・宮司権谷守雄氏）

この塔は宝筐印陀羅の題旨にそつて文化十一（一七八四年）に作塔されたもので、伏見屋吉藏という人が金百疋を寄進して雄達の菩提を弔うために建立したものである。江戸時代の作品の特徴として脚部が外側にそり返つており、古風を伝える宝筐印塔としては市内唯一のものである。（高さ五・七m）

◆宝筐印塔



▶相輪 檜



零羊崎神社奉納絵馬「白馬の図」▶

▼零羊崎神社奉納絵馬「白馬の図」（所在地：湊字牧山七番地 所有者：零羊崎神社・宮司権谷守雄氏）

万治元（一六五八年）に小（社）庵溪の内海小平治が寄進したもので、両側から管人が白馬を懸命におさえている図が良好に描かれており、保存状態がよく古い形式をよく保えたものである。市内大絵馬中の逸品である。（縦一・六二×横一・九一：檜板四枚合せ）

（高さ五・四七m）

物として残った。資料の少ない長持寺の様子を知る手掛りをもつてくれるものであり、また、この塔の作造技術は

すばらしく、石造相輪（塔）として



▼零羊崎神社奉納絵馬「黒馬の図」（所在地：湊字牧山七番地 所有者：零羊崎神社・宮司権谷守雄氏）

延宝二（一六七四年）の作品で、千石船主により寄進されたものである。古い文献によると絵馬に黒馬を画くのは、日照り続いた時に雨乞いのために奉納されるものとある。この絵馬がそれに通じるかどうかは不明であるが、古い形式をよく保っていることはたしかで、金箔地に彩色によりよく画かれており、保存状態もよく市内大絵馬中の逸品である。（縦一・五一×横一・八二：檜板四枚合せ）



▲零羊崎神社奉納繪馬「黒馬の図」



◆長崎寺「匾額」



今回指定した五件のはが、現在市内に
は、国指定文化財二件、県指定文化財二
件、市指定文化財十一件、市指定文化財を
はじめ、数多くの文化財があります。こ
れらのものはすべて先人が遺してくれた大
切な遺産であり、いま生きる私たちの手
で大切にして後世に伝えるなくてはならな
いものです。

指定文化財案内

- (1) 所有者(住所)
(2) 時代
(3) 指定年月日
(4) 所在地

国指定文化財

重要文化財「岩版」

- (1) 玉利伸氏(住吉町一)
(2) 開文
(3) 昭和36年2月
(4) 住吉町一
1日

- (1) 史跡「沼津貝塚」
(2) 浅野繁雄氏外十一名
(3) 沼津字出外
(4) 沼津字出外

- (1) 社號印神樂
(2) 代表者・桜谷守雄氏
(3) 昭和47年10月21日
(4) 仁斗田貝塚
3年3月2日

- (1) 外八名
(2) 潤文
(3) 昭和46
(4) 仁斗田貝塚
50年4月30日
内山

- (1) 平塚市
(2) 市指定文化財
内山

②中世 ③昭和50年6月1日 ④吉野
町一

平塚アナ家文書
①石巻市

②近世
③第一次昭和51年6月1日 第二次昭
和53年4月1日 ④石巻市教育委員会

鳥星神社奉納繪馬「奥州石ノ巻図」
①桜谷隆氏(羽黒町一) ②近世 ③昭
和53年8月1日 ④羽黒町一

田石巻ハリストス正教会教會堂 ①石
巻市 ②近世 ③昭和55年12月20日
④中瀬

彫刻「潮音」①石巻市 ②現代
和55年12月20日 ③昭和55年12月20日

イチヨウ(「株」) ①吉祥寺、一方井文章
氏(高木寺寺前) ③昭和55年12月20日
氏(高木寺寺前) ③昭和55年12月20日

イチヨウ ①龍洞院、泉孝氏(水沼
字天似) ③昭和55年12月20日

葛西梅 ①龍洞院、坊沢敏和氏(大瓜
棚橋) ②中世 ③昭和56年5月18日
④龍洞院

彫刻「黑潮闇日」①石巻工業松
並(「株」) ②現代 ③昭和56年5月18日

石巻市波瀬獅子風流 ①代表者・千田
豊(波瀬町) ③昭和56年12月19日
④石巻市

彫刻「漁夫像」①石巻市 ②現代
③昭和57年12月15日 ④石巻文化セン
ター

昭和61年度文化財めぐり

市内二回・市外一回で実施

「市内外に所在する『文化財』を貰手し、文化財に対する理解と認識を深め、文化財保護思想の普及と保護行政の推進を」と目的に開催している「文化財めぐり」。今年度は、市内二回、市外一回を実施しました。

10月19日

石巻・牡鹿三十三札所の文化財を訪ねて①

講師＝文化財保護委員 佐藤雄一先生

参加者＝25名
コース＝長徳寺（零羊崎神社）—梅溪寺

—宮殿寺—薬師堂—西念寺—淨蓮寺

—長谷寺—真法寺—龍泉院—吉祥寺
—龍洞院—金蔵寺

10月26日

栗原地方の文化財を訪ねて

講師＝文化財保護委員 石垣宏先生、築

館山文化財保護委員 金野正先生

参加者＝50名
コース＝杉薬師（双林寺）—山王圓道跡

—仙台藩花山村寒湯番所跡—細倉鉱

山資料館—田有壁宿本陣

11月9日

石巻・牡鹿三十三札所の文化財を訪ねて②

講師＝文化財保護委員 佐藤雄一先生

参加者＝25名
コース＝慈恩院—多福院—広濟寺—西光

寺—称法寺—壽仏堂—瑞松寺跡—普



▲長谷寺十一面觀音



▲双林寺

参加者からのおたより

今年度の文化財めぐりには延べ百人の方々に参加していただきましたが、参加しての感想や要望などをたくさん寄せられましたので、その一部を紹介します。

（泉町・佐藤さん）

身近かな所にあの様な貴重な文化財が存在して事にびっくり致しました。今

迄何気なく見過して来た物がこれからは良く注意して見出す、見聞する事に心掛けける基準が出来ました。

これからもこの様な有意義な心に残る企画を行って下さいます様希望します。

文化財関係 日記 抄

抄

昭和61年4月から62年1月までの文化係（文化財関係のみ）のおもな動きを掲載しました。調査等にご協力いただきました方々に厚くお礼申し上げます。

（4月）

30日 銅錢場関係資料（全57点）

調査・購入

（5月）

7日～8日 羽黒山遺跡調査

15日 文化財担当者会議＝多賀城

26日 文化財保護委員会

28日～29日 県史跡整備市町村協議会＝古川市

（6月）

2日 真野林道付近遺跡確認調査

10日 五松山洞窟遺跡調査報告書

11日 古文書調査

12日～13日 文化財担当者研修会

—多賀城

25日 五松山洞窟遺跡調査報告書

（7月） 作成打合会

7月1～8日 研認調査

9日 真野坂山遺跡調査

10日～13日 真野坂山遺跡一部発掘調査

16日～17日 文化財担当者研修会

三・大和町



▲慈恩寺

(略) 案館の双林寺の重要な文化財や山御所の昔の日常生活などは、いろいろな参考となる資料でした。中でも、有壁本陣は往時を憶ふ生活が想起され、武家文化の発展を見る事が出来ました。

講師先生のねんごろな御説明を感謝します。
(略)
（東中里・中村さん）
(略) 有壁本陣のすばらしい建造物、そしてわかりやすく楽しい講師先生のお話

A
3

昔も今も 変らぬ供養
ただ、ひたすらにありがたや
今日ほんとうにありがとうございました。

春の企画を是非お待ち申したい気分で
いっぱいです。

(略)なつかしい幼い日を思い出す涙の
阿弥陀坂、何時も不思議に思っていた地蔵
堂、観音堂の御開帳を仰ぎ、参加の意義



平形葉簡堂「夏韻」



渡波地方は、中央から程遠い、文化の遅れた淋しい地方とのみ思い込んでいま

なかつた貴重な石碑、六十年毎に開かれる
伝俗、吉野先帝の供養碑など、奥にま
で入れていただき手にふれさせていただ
けたことはこの上ない経験でした。本物の
文化財にふれることができとても感激
だったと何度も繰り返し話していま
す。板橋という言葉すらわからなかつた
私たちくわしく教えていただき、その
一枚の石にいろいろの内容のあらわ
えていただきました。(略)

いただき参加者全員で食べられた方がよかったですと思ひます。その土地の食物によつたと思ひます。(例へば山菜料理)などを、
③料理の説明、わかり易く大変良かつたと思ひます。何んとなく通り過ぎて、いた地にもいろいろ由来があつたのですね。来年も是非参加させていただきたいと思います。

▲吉西古墳墳頂に立つ石段と立派な双材柱。この古墳は、古墳時代後期のものとされる。また、この古墳は、古墳時代後期のものとされる。

(略) 国宝杉薬師には二十年前位に拝した事がありま

国宝的な文化財があるのにほんとうに
おどろいております。（略）

中を併んでこうと思つております。

(略)三十三札所の文化財めぐりに参加して、こんどのくらい印象深く感動した事はありませんでした。身近なお寺さんでの事なのでしょうか。私は広济寺が境内ですが今迄、この様な由緒あるお寺鬼などを行つてもとは知らず、お施餽鬼などを行つても

有名な碑や絵馬等の写真絵葉書等を意されては。（略）
（日和山・菅原さん）

の札所の立札や次の寺へ行く道順、

したがいろいろ歩き、ずい分親しみが生まれてきました。ただ感謝あるのみで希望=拓本のとり方の様なのも指導し

文化財愛護シンボルマーク



このマークは、文化財愛護運動を全国に押し進めるための旗として、昭和41年5月に定められたものです。ひろげた

つて、日本建築の重要な要素である斗拱（組みもの）のイメージを表わし、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

有壁本陣など説明付きでゆっくり見学できましたこと、講師の先生方も最後まで丁寧に御説明いただき感謝申し上げますありがとうございました。（略）

▲花山御番所前

8日	文化財調査（釜西古墳）	4日	文化財バトロール（牛の鞍 輪はか）
10日	文化財調査（坂山付近道路調査）	12日	文化財調査（沼津貝塚はか）
17日	文化財調査（大和田・大瓜 南境踏跡はか）	13日	市指定文化財・旧石巻ハリ ストス正教会教会堂テレビ中 継
8日	文化財調査（水巖寺・寿福 寺・押昌寺板碑所在調査）	9日	文化財調査（東雲寺・西光 寺・益地区板碑所在調査）
12日	文化財調査（寺館・小屋館 館跡調査）	13日	文化財調査（竹ノ下館跡は か）
26日	文化財調査（前田地区道路 調査）	27日	文化財調査（高木古館はか）

旧町名表示石柱設置事業

由緒ある町名を後世に：

「合理的な住居表示を…」という目的で、昭和37年に制定された「住居表示に関する法律」により、翌38年から全国の各都市に順次町名の変更がされています。

石巻市においても昭和40年からの新しい住居表示を実施し、町名が変更されています。

新しい住居表示の特徴は、これまでの「通り」を単位とした町名ではなく、從来交流のなかった背中合わせのブロック単位の「街区方式」となっています。

地名は民俗学と古代史が接点があり、かけがえのない文化遺産だといえます。由緒ある町名を後世に伝えるということは、今生きる私たちの大切な役割りではないでしょうか。

石巻市教委員会では、なくなってしまった町名を後世に伝えるため、昭和56年度から「旧町名表示石柱設置事業」を行い、昭和64年度までの計画で、市内20か所に設置する予定であります。

(昭和56年度設置)

新田町 = 千石町 (石巻グランドホ

テル前)

渡波本町 = 渡波町 (内海笑方前)

渡波本町 = 渡波町 (湊幼稚園前)

横町 = 千石町 (河北新報社前)

坂下町 中央一・永嚴寺参道入口
孫兵衛運河の一つ「開通渠」広小路
以南の杉山坂、日和山坂への折り回し道
二本に分まれた「南鷹山八ツ沢」の地域
は、庄鹿郡役所わきに石巻・湊・門脇・

蛇田四か村戸長役場が落成した明治十八年春以来、民家急増による街区の形成を仰えたため、宮城県令平正直は住民の請願に基づく四か村連合戸長小堀川明康の町名許可願を賜て、明治十九年四月十三日に新町名「坂下町」が誕生しました。

「中町」 = 中央二 (丸光石巻店前)
「丸光町」 = 門脇町一 (消防第三分団前)

(昭和58年度設置)

「立町」 = 立町一 (振興相互銀行前)

「面刺田」 = 清水町一 (ニイタマビル前)

「八ツ沢」 = 湧泉町一 (八ツ沢緑地公園内)

(昭和60年度設置)

「後町」 = 門脇町二 (西光寺前)

「袋谷地」 = 水明南二 (長林寺前)

(昭和61年度設置)

「石垣」 = 丹波町一 (門脇町前)

「中央」 = 田石卷郵便局前

(昭和62年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

「西光寺」 = 水明南二 (長林寺前)

(昭和63年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

「西光寺」 = 水明南二 (長林寺前)

(昭和64年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

「西光寺」 = 水明南二 (長林寺前)

(昭和65年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

「西光寺」 = 水明南二 (長林寺前)

(昭和66年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

「西光寺」 = 水明南二 (長林寺前)

(昭和67年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

「西光寺」 = 水明南二 (長林寺前)

(昭和68年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和69年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和70年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和71年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和72年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和73年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和74年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和75年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和76年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和77年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和78年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和79年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和80年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和81年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和82年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和83年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和84年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和85年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和86年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和87年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和88年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和89年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和90年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和91年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和92年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和93年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和94年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和95年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和96年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和97年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和98年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和99年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和100年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和101年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和102年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和103年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和104年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和105年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和106年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和107年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和108年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和109年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和110年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和111年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和112年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和113年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和114年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和115年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和116年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和117年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和118年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和119年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和120年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和121年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和122年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和123年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和124年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和125年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和126年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和127年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和128年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和129年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和130年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和131年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和132年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和133年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和134年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和135年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和136年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和137年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和138年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和139年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和140年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和141年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和142年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和143年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和144年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和145年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和146年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和147年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和148年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和149年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和150年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和151年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和152年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和153年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和154年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和155年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和156年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和157年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和158年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和159年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和160年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和161年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和162年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和163年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和164年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和165年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和166年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和167年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和168年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和169年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和170年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和171年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和172年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和173年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和174年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和175年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和176年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和177年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和178年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和179年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和180年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

(昭和181年度設置)

「西町」 = 丹波町二 (西光寺前)

文化財標柱設置事業

石巻市教育委員会では、市内にある多くの道跡や史跡をはじめ各種文化財の保護、保存のため、その所在等を広く一般の方々に周知することが必要と考え、主な道跡に標柱を設置しています。

今年度は、新しく市指定文化財として

指定した「宝篋印塔」（相輪塔）のほか

建替え分三本の計五本を設置しました。

先人が残してくれたかけがいのない文

化遺産を保護、保存されるよう特段のこ

協力をお願いします。

（昭和61年度設置標柱）

◆市指定文化財 宝篋印塔（文面省略）

◆市指定文化財 相輪塔（文面省略）

（文面省略）

◆明神山経塚

この塚は直徑約十

高さ約三三の円形で、標高約五十の丘陵最高部に位置している。マウンドの状態から結構あるいは後期古墳と思われるが、未発掘であり確認がない。

かつて塚の南側から須恵器が出土したらしいが現在確認できない。市内に遺存する数少ないマウンド遺構として貴重である。

（文面省略）

■屋敷浜貝塚

この道跡は、縄文時代中期から晩期（約四六〇〇年前から二四〇〇年前）にかけて形成された貝塚で、頂部周辺を占めている。これまで釣針、銛、石器、土器を多出土しており、規模が大きくて出土物が豊富であり、非常に重要な道跡である。

（文面省略）

▼設置場所＝渡波字屋敷浜七

（文化財標柱及び設置場所）

■南境貝塚＝高木字小沢

小沢貝塚＝高木字小沢

にら塚貝塚＝留原字原

善東古墳＝門脇字西三軒屋

真野原原伝説地＝真野字菅原

延喜式内社曾波神社＝蛇田字曾波

好日山海門寺跡＝日和が丘一

内原遺跡＝内原字小山

鹿島御兒神社＝日和が丘二

袖の渡し＝佐吉町一

蛇田道将軍碑＝田道町一

新山崎遺跡＝蛇田字新山崎

内原遺跡＝内原字小山

アチャ浜遺跡＝牧浜字福貴道

一本杉貝塚＝渡波字須崎浜

梨木畠貝塚＝渡波字梨木畠

垂水曲貝塚＝渡波字垂水地内

堤貝塚＝渡波字堤山

平形山根貝塚＝平形字山根

坊沢山龍洞院＝大瓜字棚下

慈恩院板碑群＝吉野町一

草刈山板碑群＝吉野町一

平形貝塚＝沢田字平形

南境館跡＝南境字船下

長谷寺板碑群＝真野字菅原

觀音堂板碑群＝高木字竹下

京ヶ森館跡＝京ヶ森

高木古館跡＝高木字石崎

鶴子板碑跡＝沼津字八幡山

越田台遺跡＝沼津字越田

日和城社登り口＝日和が丘一

市指定天然記念物イチヨウ＝高木字寺前

市指定天然記念物イチヨウ＝水沼字天假

電向山藏泉院＝水沼字天假

久米幸太郎仇討の地＝渡波字祝田浜

渡波塙田跡＝留原字新田

渡波塙田跡＝留原字新田

▲文化財標柱
「屋敷浜貝塚」

▲文化財標柱
「釜西古墳」

文化財の周知により保護・保存をはかる

直徑約十五㍍程度であったが、製作年

代・主体部の状況等は明確でなく、残

在する埴丘も半壊しており、かなり変

形されているため、主体部はすでに失

われているものと考えられる。

▼設置場所＝昭和字築山九一二

（文面省略）

■明神山経塚

この塚は直徑約十

高さ約三三の円形で、標高約五十の丘陵最高部に位置している。マウンドの状態から結構あるいは後期古墳と思われるが、未発掘であり確認がない。

かつて塚の南側から須恵器が出土したらしいが現在確認できない。市内に遺存する数少ないマウンド遺構として貴重である。

（文面省略）

■屋敷浜貝塚

この道跡は、縄文時代中期から晩期（約四六〇〇年前から二四〇〇年前）にかけて形成された貝塚で、頂部周辺を占めている。これまで釣針、銛、石器、土器を多出土しており、規模が大きくて出土物が豊富であり、非常に重要な道跡である。

（文面省略）

▼設置場所＝渡波字屋敷浜七

（文化財標柱及び設置場所）

■南境貝塚＝高木字小沢

小沢貝塚＝高木字小沢

にら塚貝塚＝留原字原

善東古墳＝門脇字西三軒屋

真野原原伝説地＝真野字菅原

延喜式内社曾波神社＝蛇田字曾波

好日山海門寺跡＝日和が丘一

内原遺跡＝内原字小山

鹿島御兒神社＝日和が丘二

袖の渡し＝佐吉町一

蛇田道將軍碑＝田道町一

新山崎遺跡＝蛇田字新山崎

内原遺跡＝内原字小山

アチャ浜遺跡＝牧浜字福貴道

一本杉貝塚＝渡波字須崎浜

梨木畠貝塚＝渡波字梨木畠

垂水曲貝塚＝渡波字垂水地内

堤貝塚＝渡波字堤山

平形山根貝塚＝平形字山根

坊沢山龍洞院＝大瓜字棚下

慈恩院板碑群＝吉野町一

草刈山板碑群＝吉野町一

平形貝塚＝沢田字平形

南境館跡＝南境字船下

長谷寺板碑群＝真野字菅原

觀音堂板碑群＝高木字竹下

京ヶ森館跡＝京ヶ森

高木古館跡＝高木字石崎

鶴子板碑跡＝沼津字八幡山

越田台遺跡＝沼津字越田

日和城社登り口＝日和が丘一

市指定天然記念物イチヨウ＝高木字寺前

市指定天然記念物イチヨウ＝水沼字天假

電向山藏泉院＝水沼字天假

久米幸太郎仇討の地＝渡波字祝田浜

渡波塙田跡＝留原字新田

渡波塙田跡＝留原字新田

▲文化財標柱
「屋敷浜貝塚」

▲文化財標柱
「釜西古墳」

昭和六十年度 文化財調査報告 石巻市稻井高木地区の板碑分布調査

石巻市文化財保護委員会 佐藤 雄一

● 調査期間

昭和六十年七月二十三日～二十五日

● 調査員

赤道康枝、阿部光宝、菊地由加、
加藤由美、竹谷尚子（石巻市立女子高等学校）
商業高等学校、岡孝子（石巻市立女子高等学校）

● 調査補助員

佐藤雄一（宮城県石巻高等学校）



1. 調査区域の概要

本年度の調査区域である高木地区（藩政時代の高木村）に関する記録は、稲井町史に、石巻城主葛西宗清（二代）が

正八年飯野川の七尾城攻略の陣を布いた時、社鹿高木の邑主高木四郎右衛門も

召されて参戦した事実があるとし、この

高木氏の居住するところによって高木の

地名の由来をしている。（出典不明）

これが高木村についての中世の記録らしい

のがあるが、一方、安永風土記によると

には「鐵屋敷地大一本安木」と古日本

枯木、代木當時松堂寺丈四尺五寸御

座候今以村名ニ号米田云々」記してい

る。

板碑調査との関連性では前者の記述が

注目されるべきだろう。安永風土記による

高木村の基本的な状況は次のようである。

（一） 一丁代 五拾九貫三拾五文

（二） 一畠代 六貫六百七拾壹文

（三） 内茶畠貢八百文

（四） 一式拾七貫七百五拾七文 御給入

（五） 一式拾八貫五百四拾九文 御給所

（六） 都合六拾六貫三百六文

（七） 一頭 八拾人 内寺立ヶ寺

（八） 一頭 八拾人 内寺立ヶ寺

（九） 立候者三拾壹軒其後四拾九人相増

（十） 當時右人頭 離成族但沾却悉一圓

（十一） 無御座候事

（十二） 一家 八拾七軒 内 名子七軒

（十三） 男女都合 六百六拾文 九百九十九人五人

（十四） 一馬 九拾六匹

(下略)

この記録から中世高木村の姿を類推することは困難なことはあるが、参考として記しておくことにする。

2. 板碑造立の状況

a、板碑造立地区

高木地区は江戸期の田高木村である。東は水沼（田水沼村）と接し、西は大瓜（旧大瓜村）に連なり、南は真野（旧真野村）の境土手まで、北は桃生郡河北町三輪田を境として、上品山頭にいたる。

したがって、高木地区的集落は上品山丘陵麓にはば切れ目なく西端から、石崎、小西、清水、寺前、若宮、小沢と続いている。

これら七つの集落のうち板碑造立が確認されるのは清水寺の竹下にある観音

堂周辺、寺前の蓬萊山吉祥寺、若宮地区の八幡神社境内、さらには上品山登り口の寺場跡と呼ばれる西地区である。しかしながら、上品山寺場跡の板碑群については、なかなか確証ができず、報告書がほぼ書き上げられた二月に入つてから、

日野孝輔の案内によつて、ようやく確認できたので、今回の調査報告に含める

ことはできなかつた。次回の調査報告に詳細を記すことにする。

高木地区的板碑が集中しているのは親音堂周辺である。この高木音堂板碑群

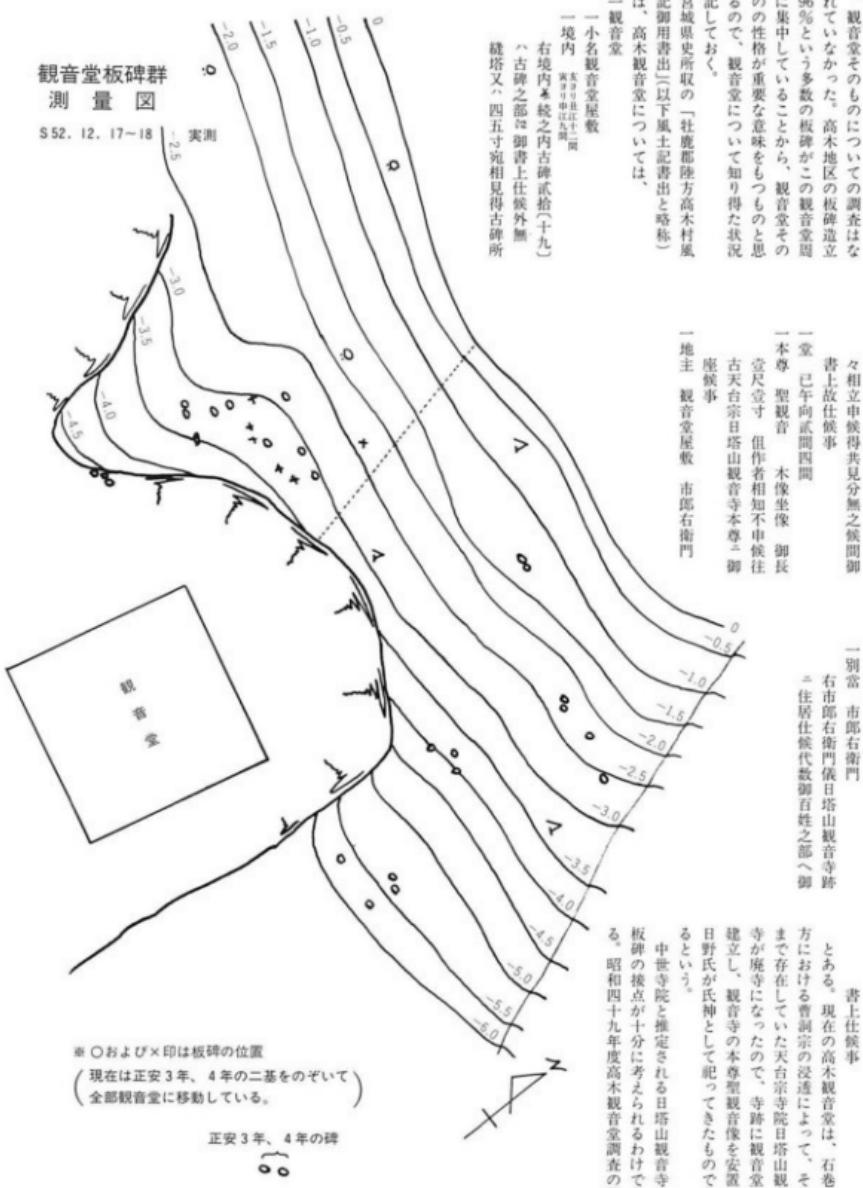
については文化財だより第三号において概要是報告されているが、その後認じ

れたものを含めての悉皆調査報告ははじめてである。高木音堂板碑群について

は以前から注目されていたところである。詳細を記することにする。

観音堂板碑群測量図

S 52. 12. 17-18



が、観音堂そのものについての調査はなされていなかった。高木地区の板碑遺立の96%という多数の板碑がこの観音堂周辺に集中していることから、観音堂そのものの性格が重要な意味をもつものと思えるので、観音堂について知り得た状況を記しておく。

宮城県史所取の「社鹿都陸方高木村風土記御用書出」(以下風土記書出と略称)には、高木観音堂については、

々相立申候得共見分無之候間御
書上仕候事
一堂 已午武闘四間
一本尊 聖観音 木像坐像 御長壹尺五寸 但作者相知不申候往古天台宗日塔山観音寺本尊ニ御

古天台宗日塔山観音寺本尊ニ御
一地主 観音堂屋敷 市郎右衛門 座候事

一別當 市郎右衛門
右市郎右衛門儀日塔山観音寺跡
ニ住居仕候代數御百姓之部へ御
書上仕候事

ある。現在の高木観音堂は、石巻地方における曹洞宗の漫遊によって、それまで存在していた天台宗寺院日塔山観音寺が廃寺になったので、寺跡に観音堂を建立し、観音寺の本尊聖観音像を安置、日野氏が氏神として祀ってきたものであるといふ。中世寺院と推定される日塔山観音寺と板碑の接点が十分に考えられるわけである。昭和四十九年度高木観音堂調査の後、

中村光一氏作成による高木観音堂と板碑群の原位置との関係測量図掲載しておく。
(国前貢)

また、地主市郎右衛門の子孫は観音堂前に居住している日野孝栄氏であり、日

野氏は大塔宮護良親王に随つて当地方に下ってきたとい、明治の初期までは日野塔氏を称していたことが、地券の記載によつて確認できる。現在日野氏は上品山の久集比奈神社の別当を担当していることであつて、観音堂の管理は日野良吉氏にゆずつてゐるといふ。

b、板碑造立数について
高木地区の板碑については、風土記出には、古碑三拾基（上品山の三基を含む）とあるが、実際には二十六基の記載があるだけあり、福井町史によれば、二十一基（上品山の二基を含む）となつてゐる。宮城県内の板碑をまとめた宮城県誌印石篇には十九基（上品山の二基を含む）となつて、時代が下るにつれて確認される板碑の数は減少してゐる。このことは、年月の経過とともに、板碑が失われていったものと考えれば、ごくあたり前のように思えるが、今回の調査で判明した紀年銘のある板碑は、五十七基（上品山の板碑は含まない）であるので、この福井町史、宮城県史における板碑の減少は、単に板碑が失われたということではなく、調査の杜撰さによるものであるといつてよい。

今回の調査で確認された板碑総数は断碑も含めて九十六基（上品山板碑は含まれない）であり、その96%の九十二基は高木観音堂に集中している。このことは中

世寺院と推定される日塔山観音寺とのかかわりで考察されるべきものであると思われる。今後の調査における取扱いであつた。

c、時代区分と板碑造立の状況

総数九十六基のうち紀年銘の確認できるもの五十九基である。

地 区	觀音堂（竹下）	九十二
吉 神 寺（寺前）	一	
八幡神社（若宮）	三	
合 計	九十六	

上限は承仁五（一二五七）年、下限は長享二（一四八八）年である。これら紀年銘のある五十九基を中心にして、高木地区の板碑について若干の考察をしてみたいと思う。

①時代区分と板碑の形態

通常板碑の形態は兼倉期は比較的大型であり時代を下るにつながつて、その形態は小型になると考えられている。今回の調査でも、このことははつきりと観察することができた。

観音堂脇に立つNo.2の正安三年、正

安四年の二基をはじめとして、No.5若

宮八幡神社の延慶一年の碑に代表され

るもの及び観音堂入口に立つNo.6の阿弥

陀三尊（延慶二年）碑は高木地区にお

ける兼倉期の板碑の代表であり、大型板碑の典型である。室町期に入るとこれをしての大型板碑の造立はないものである。

②時代区分による種子の変化と供養内容

さてあげるとすれば、阿弥陀三尊種子が四基あり、また、No.5延慶二年の阿弥陀大形の引方方が注目されるべきだろ。兼倉期の種子については例示されるべきものも八基と少ないので、断定的などはいえないが、兼倉期には、

室町期に入つてから阿弥陀三尊種子がまったく表われていないことから、阿弥陀三尊種子を中心にして造立されてい

るようすに思える。

これが南北朝中期から室町期に入ると一貫するようである。それは、次の表で読み取ることができるよう、南北朝の時代で読み取ることができるように、バーン（胎藏界大日）が主流を占めるようになっている。（年代不明のもの

のバーン種子をふくめると二十二基な

ど二位のサクは現れはしないでいる）

この二位のサクは現れはしないでいる）

明を加える力はないので、後日の研究に待たいと思つ。また、南北朝中期から室町期になると三尊種子はまったく現出することがなく、一種種子だけである。これは卒塔婆造立と年忌供養とが確実な形で普及していった結果と思える。

南北朝・直和以後の種子の状況

（頻度の多い順）

バーン（胎藏界大日）	八
サク（勢至菩薩）	四
カ（地蔵菩薩）	三
ターラー（虚空藏菩薩）	三
アーラー（胎藏界大日）	二
バーン（胎藏界大日）	二
ターラー（虚空藏菩薩）	一
アーラー（阿弥陀）	一
キリーカ（阿弥陀）	一
サク・カ（勢至菩薩・地蔵菩薩）	一

②若宮八幡神社の延慶二年板碑(No.1)
八幡神社石段中ほどを右手に数メートル入ったところに表面を上に傾斜している。全長32cmは高木地区における板碑中最大のものである。種子ヨリ一クは幅72cm、横60cmと種子の壯大さでも他を圧している。しかるにその厚さは最大でも14cmと意外と薄手である。このことはNo.3の正安碑が上部に反りをもつて比較的薄手であることと考え合わせれば、高木地区における板碑作成の一端を窺うる手掛りになるのではないか。

また、これは「三十余人之念佛衆」によって造立された結業板碑でもある。一般的に結業板碑は室町時代以後に造立されるときされているが、この板碑を観察する限りにおいては鎌倉時代にすでに造立されていることがわかる。結業板碑の全国的な造立時期の確定調査がなされる必要があると思う。

また、結業板碑は宗教的な面のみから観察されがちであるが、私はもっと

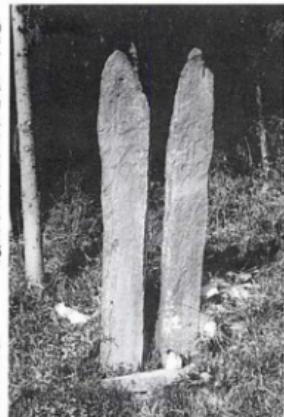
③若宮八幡神社の延慶二年板碑(No.1)
八幡神社石段中ほどを右手に数メートル入ったところに表面を上に傾斜している。全長32cmは高木地区における板碑中最大のものである。種子ヨリ一クは幅72cm、横60cmと種子の壯大さでも他を圧している。しかるにその厚さは最大でも14cmと意外と薄手である。このことはNo.3の正安碑が上部に反りをもつて比較的薄手であることと考え合わせれば、高木地区における板碑作成の一端を窺うる手掛りになるのではないか。

現実的な面からその観察も可能なではないかと思つてゐる。すなわち中世武士団の「一味神水」による「一揆契約」の行動が、宗教的な形で表現されたものが結業板碑の造立ではないのだろうかと考へてゐる。もし、結業板碑をこのように観察することが妥当であるとするならば、板碑を通しての在地武士団の様子がより一層はつきりと認識されるようになるのではないかろうか。

④観音堂入口（秋葉大樹現の小社内）
(No.1)



▲No.80 地藏板碑

▲No.2・3 正安三・四年の碑
(原位置のままと思われる)

④観音堂奥国元年碑(No.12)

種子は阿弥陀三尊であるが、キリーカーク、サクの涅槃点が種子の下部に置かれ、変形している。奥国元年碑は南朝年号であり、石巻地方においてはあと二、三年で南朝号がまったく表われてこないことを考へると貴重なものである。

⑤三本足の鳥と兔の碑(No.1)

まつたく奇妙な因柄である。板碑と

い、うにはちゅうちょさせるものである

が、國柄の下部にキリーカークと見しき形

り込みがあるので、一応、諸家の注意を喚起したいと思つて入れてある。

⑥地藏板碑(No.88)

い、うにはちゅうちょせるものである

が、國柄の下部にキリーカークと見しき形

り込みがあるので、一応、諸家の注意を

を喚起したいと思つて入れてある。

⑦心外無別法

心佛及業生

是三無差別

（正安四年碑No.3）

この形であるので

はないが、華嚴經

の偈として作られ

心外無別法

出典=華嚴經

集めて作った偈で

この形であるので

たものという。

⑧光明遍照

光明遍照

出典=觀無量壽經

十方世界

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

地藏板碑

出典=觀無量壽經

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

⑨觀音堂奥国元年碑(No.12)

觀音堂奥国元年碑

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

⑩光明遍照

光明遍照

出典=觀無量壽經

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

⑪一切有為法

一切有為法

出典=金剛經

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

⑫如夢幻泡影

如夢幻泡影

出典=金剛經

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

⑬一念弥陀佛

一念弥陀佛

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

⑭即滅無量罪

即滅無量罪

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

⑮現受無比樂

現受無比樂

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

⑯後生淨土

後生淨土

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

⑰如露亦如電

如露亦如電

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

⑱應作如是觀

應作如是觀

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

⑲（No.23）

（No.23）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

⑳（No.24）

（No.24）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉑（No.25）

（No.25）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉒（No.26）

（No.26）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉓（No.27）

（No.27）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉔（No.28）

（No.28）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉕（No.29）

（No.29）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉖（No.30）

（No.30）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉗（No.31）

（No.31）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉘（No.32）

（No.32）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉙（No.33）

（No.33）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉚（No.34）

（No.34）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉛（No.35）

（No.35）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉜（No.36）

（No.36）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉝（No.37）

（No.37）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉞（No.38）

（No.38）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉟（No.39）

（No.39）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉟（No.40）

（No.40）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉟（No.41）

（No.41）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉟（No.42）

（No.42）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉟（No.43）

（No.43）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉟（No.44）

（No.44）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉟（No.45）

（No.45）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉟（No.46）

（No.46）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉟（No.47）

（No.47）

出典=觀音堂奥国元年碑

念佛衆生

の偈として作られ

たものという。

㉟（No.48）

（No.48）

出典=觀音堂奥国元年碑

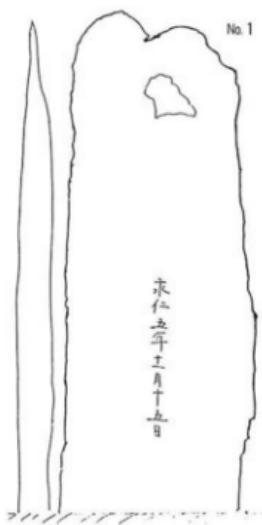
念佛衆生

の偈として作られ

たものという。



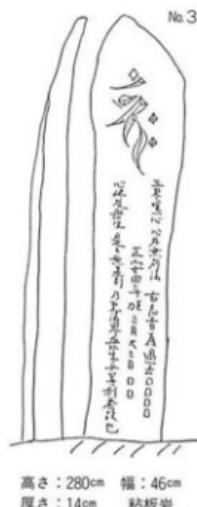
高さ：290cm 幅：40cm
厚さ：20cm 粘板岩



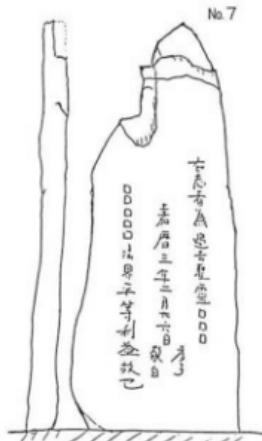
高さ：108cm 幅：40cm
厚さ：11cm 粘板岩



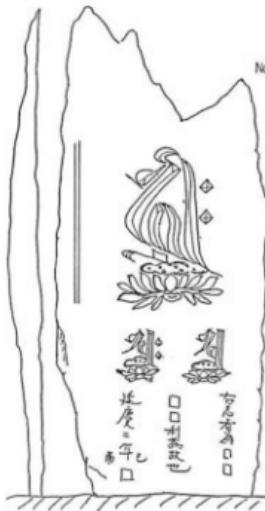
高さ：116cm 幅：34cm
厚さ：18cm 粘板岩



高さ：280cm 幅：46cm
厚さ：14cm 粘板岩



高さ：86cm 幅：35cm
厚さ：8cm 粘板岩



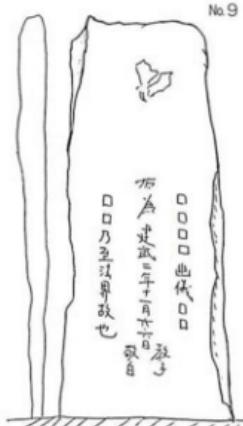
高さ：166cm 幅：70cm
厚さ：15cm 粘板岩



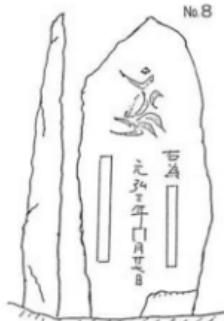
高さ：352cm 幅：78cm
厚さ：14cm 粘板岩



高さ：140cm 幅：34cm
厚さ：13cm 粘板岩



高さ：86cm 幅：36cm
厚さ：8cm 粘板岩



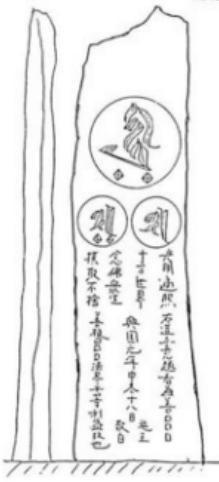
高さ：109cm 幅：43cm
厚さ：14cm 粘板岩

No.13



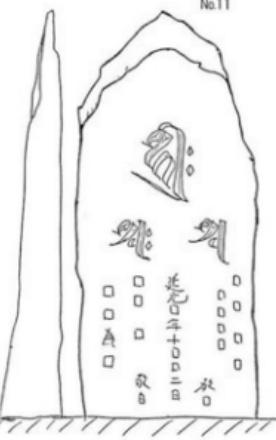
高さ：158cm 幅：57cm
厚さ：20cm 粘板岩

No.12



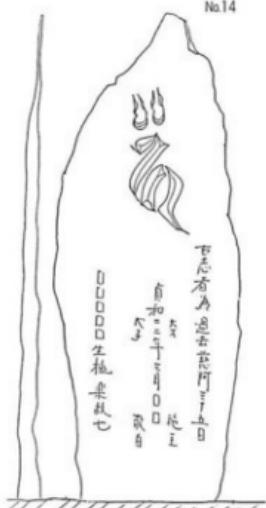
高さ：165cm 幅：40cm
厚さ：18cm 粘板岩

No.11



高さ：145cm 幅：60cm
厚さ：25cm 粘板岩

No.14



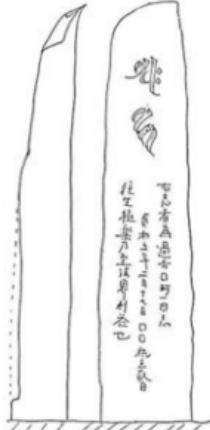
高さ：104cm 幅：36cm
厚さ：6cm 粘板岩

No.16

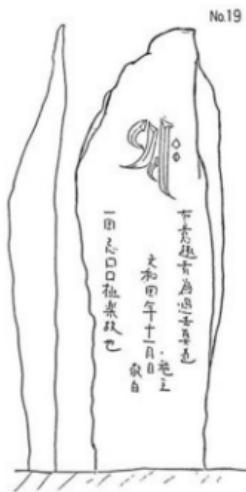


高さ：75cm 幅：34cm
厚さ：16cm 粘板岩

No.15



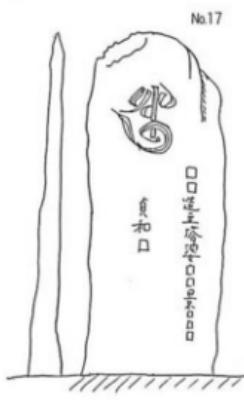
高さ：150cm 幅：30cm
厚さ：20cm 粘板岩



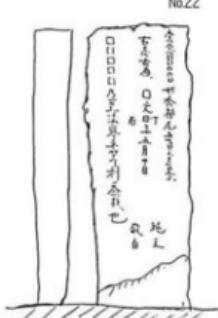
高さ：155cm 幅：40cm
厚さ：20cm 粘板岩



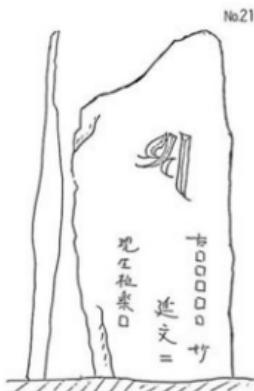
高さ：92cm 幅：27cm
厚さ：10cm 粘板岩



高さ：125cm 幅：40cm
厚さ：12cm 粘板岩



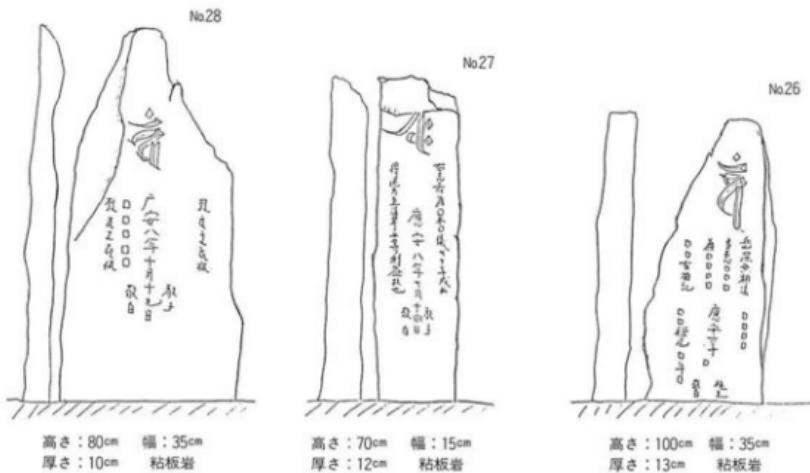
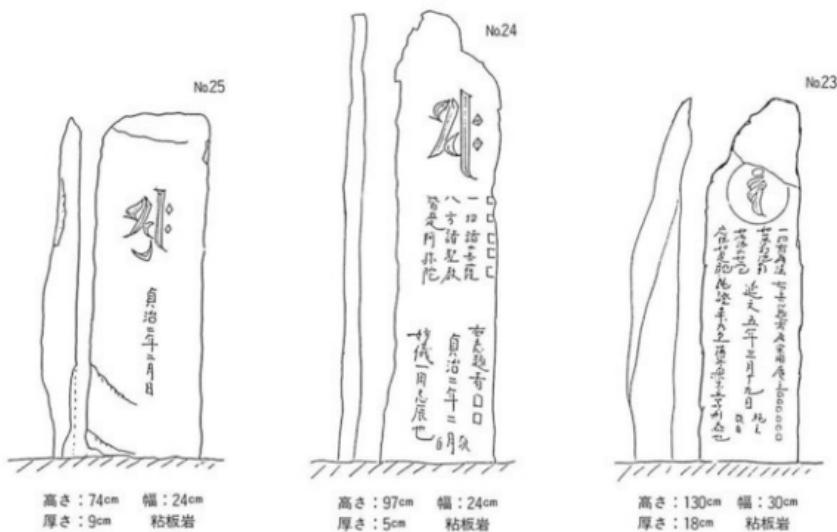
高さ：60cm 幅：20cm
厚さ：13cm 粘板岩



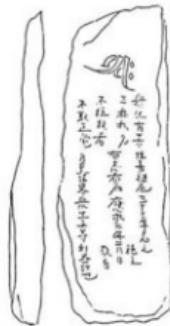
高さ：75cm 幅：35cm
厚さ：9cm 粘板岩



高さ：102cm 幅：40cm
厚さ：10cm 粘板岩

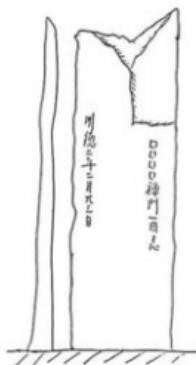


No.31



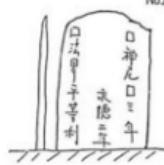
高さ：62cm 幅：23cm
厚さ：8cm 粘板岩

No.30



高さ：57cm 幅：28cm
厚さ：5cm 粘板岩

No.29



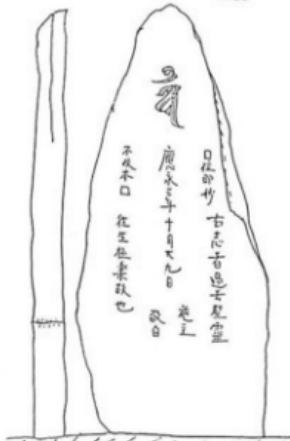
高さ：25cm 幅：15cm
厚さ：3.5cm 粘板岩

No.34



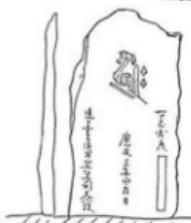
高さ：72cm 幅：27cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.33



高さ：91cm 幅：39cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.32

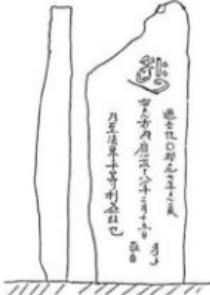


高さ：45cm 幅：22cm
厚さ：5cm 粘板岩

No.37



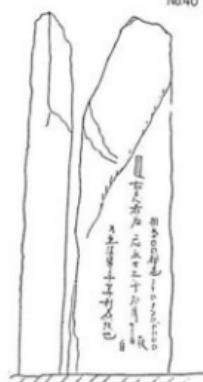
No.36



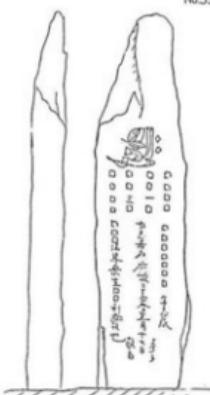
No.35



No.40



No.39

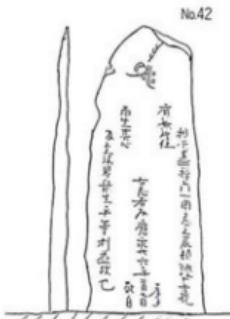


No.38

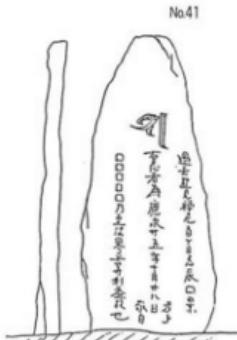




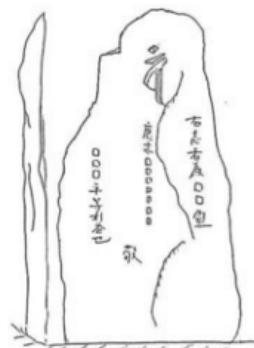
高さ：100cm 幅：29cm
厚さ：16cm 粘板岩



高さ：98cm 幅：35cm
厚さ：9cm 粘板岩



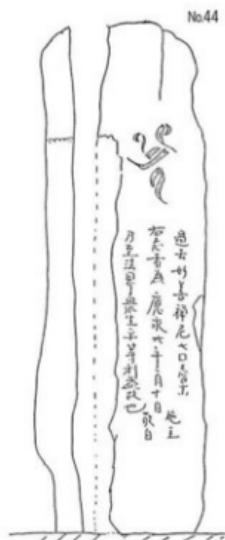
高さ：63cm 幅：28cm
厚さ：7cm 粘板岩



高さ：75cm 幅：37cm
厚さ：6cm 粘板岩



高さ：60cm 幅：30cm
厚さ：9cm 粘板岩



高さ：110cm 幅：20cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.49

始如喪家
木未成仙
生尤遲疑
猶十載矣
乃題斯石
以示後人

高さ：80cm 幅：31cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.48

No.47

高さ：92cm 幅：20cm
厚さ：12cm 粘板岩

高さ：64cm 幅：32cm
厚さ：9cm 粘板岩

No.52

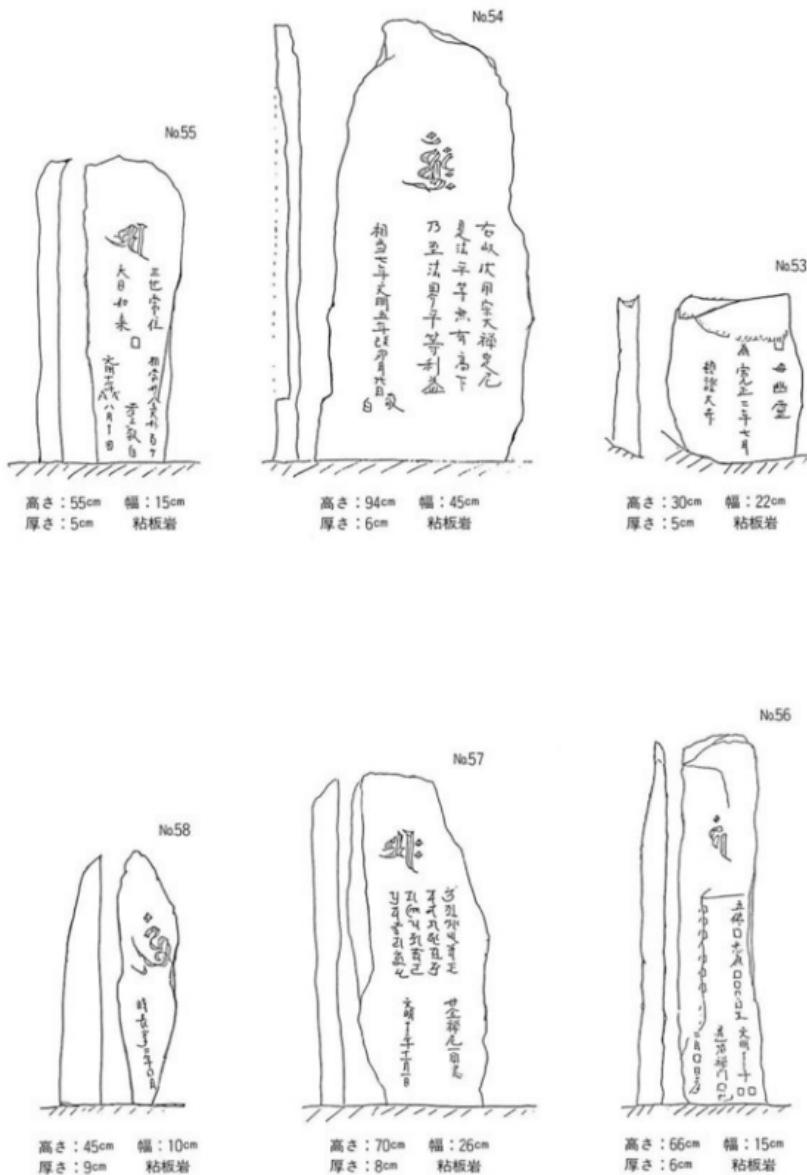


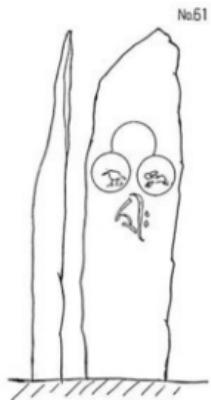
高さ：93cm 幅：24cm
厚さ：11cm 粘板岩



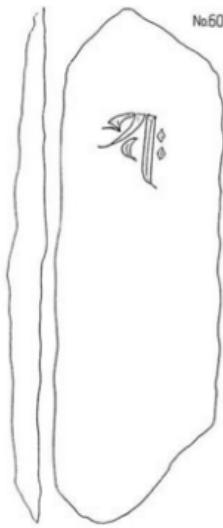
高さ：86cm 幅：27cm
厚さ：10cm 粘板岩

高さ：77cm 幅：26cm

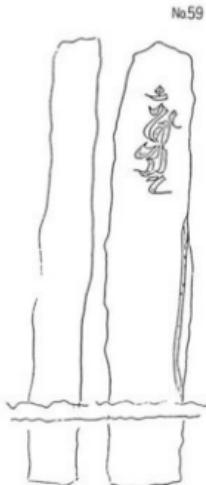




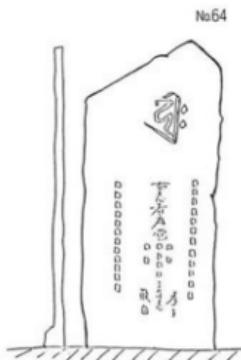
高さ：125cm 幅：25cm
厚さ：15cm 粘板岩



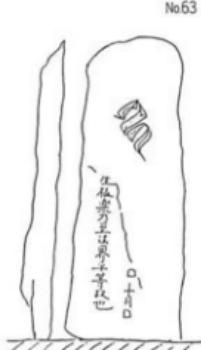
高さ：180cm 幅：53cm
厚さ：15cm 粘板岩



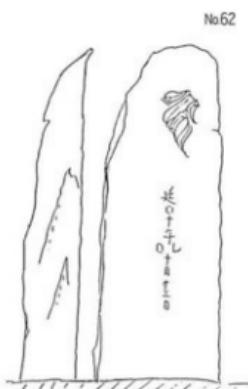
高さ：230cm 幅：24cm
厚さ：24cm 粘板岩



高さ：110cm 幅：44cm
厚さ：10cm 粘板岩



高さ：110cm 幅：30cm
厚さ：10cm 粘板岩



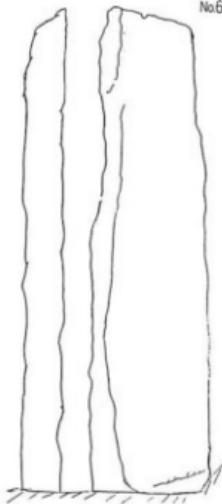
高さ：118cm 幅：37cm
厚さ：28cm 粘板岩

No.67



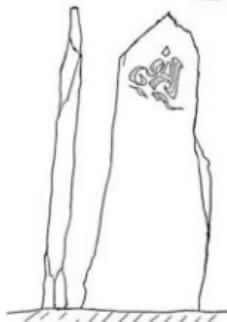
高さ：100cm 幅：17cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.66



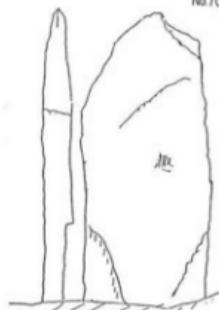
高さ：106cm 幅：22cm
厚さ：14cm 粘板岩

No.65



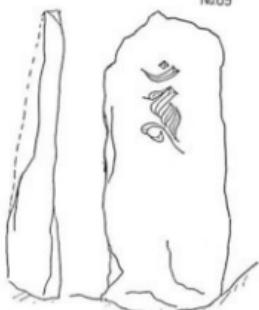
高さ：108cm 幅：35cm
厚さ：8cm 粘板岩

No.70



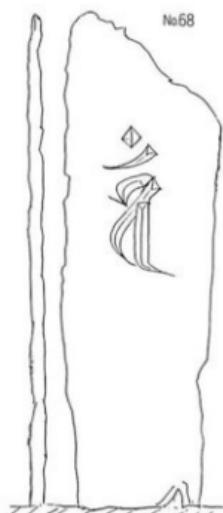
高さ：105cm 幅：37cm
厚さ：9cm 粘板岩

No.69

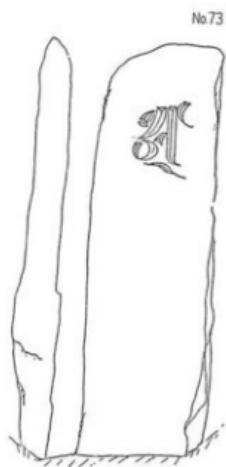


高さ：105cm 幅：36cm
厚さ：17cm 粘板岩

No.68



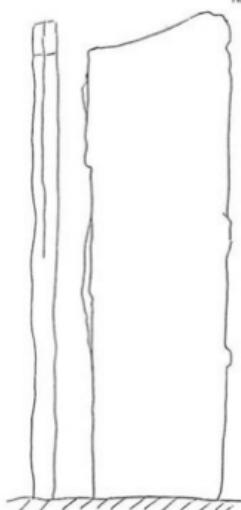
高さ：110cm 幅：34cm
厚さ：4cm 粘板岩



高さ：87cm 幅：27cm
厚さ：14cm 粘板岩



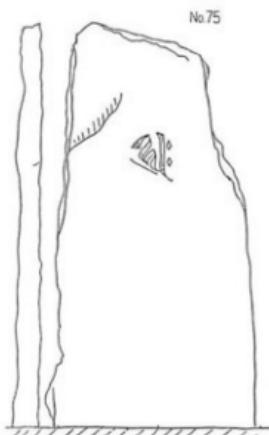
高さ：96cm 幅：16cm
厚さ：8cm 粘板岩



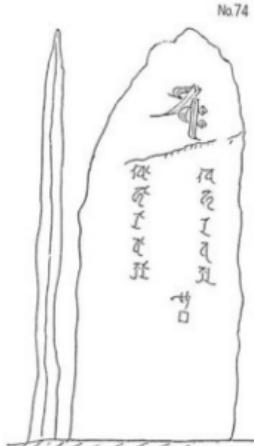
高さ：102cm 幅：30cm
厚さ：7cm 粘板岩



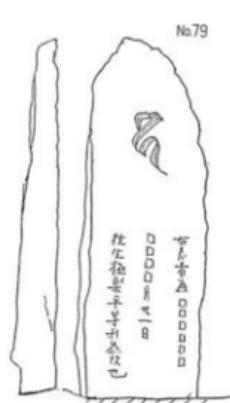
高さ：85cm 幅：33cm
厚さ：9cm 粘板岩



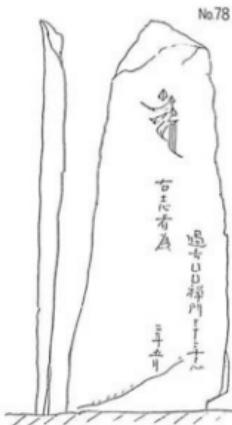
高さ：85cm 幅：43cm
厚さ：6cm 粘板岩



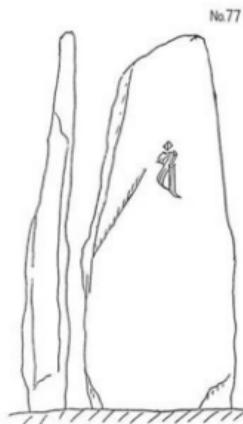
高さ：87cm 幅：39cm
厚さ：10cm 粘板岩



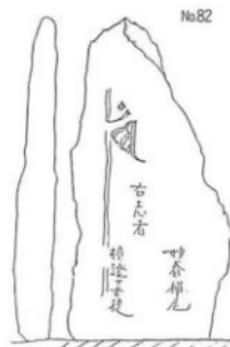
高さ：80cm 幅：24cm
厚さ：12cm 粘板岩



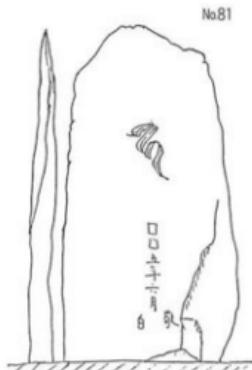
高さ：82cm 幅：38cm
厚さ：6cm 粘板岩



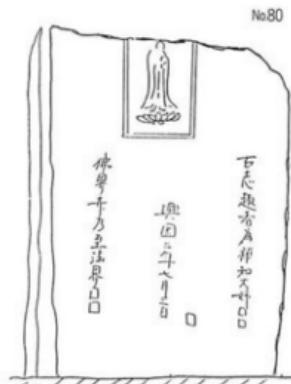
高さ：82cm 幅：30cm
厚さ：13cm 粘板岩



高さ：58cm 幅：30cm
厚さ：10cm 粘板岩

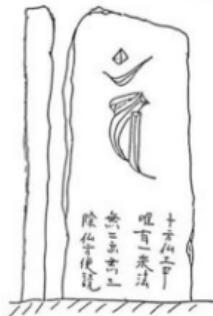


高さ：72cm 幅：38cm
厚さ：9cm 粘板岩



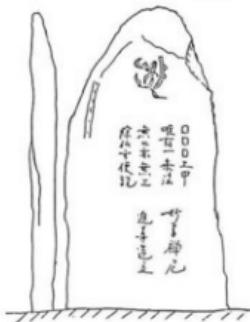
高さ：75cm 幅：48cm
厚さ：4cm 粘板岩

No.85



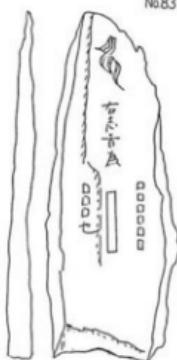
高さ：61cm 幅：27cm
厚さ：7cm 粘板岩

No.84



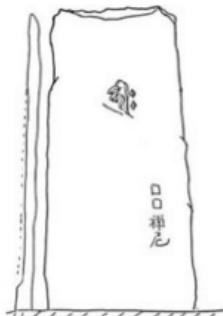
高さ：65cm 幅：34cm
厚さ：7cm 粘板岩

No.83



高さ：67cm 幅：18cm
厚さ：4cm 粘板岩

No.87



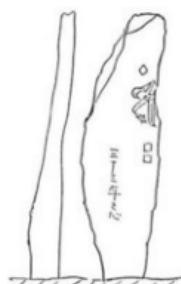
高さ：54cm 幅：27cm
厚さ：8cm 粘板岩

No.88

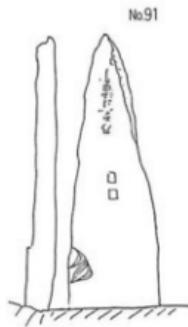


高さ：54cm 幅：34cm
厚さ：7cm 粘板岩

No.86



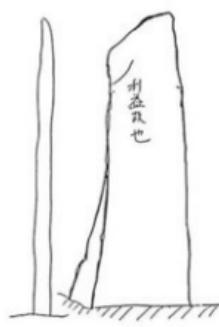
高さ：57cm 幅：14cm
厚さ：9cm 粘板岩



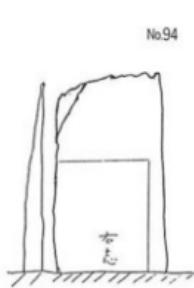
高さ：49cm 幅：16cm
厚さ：6cm 粘板岩



高さ：52cm 幅：25cm
厚さ：7cm 粘板岩



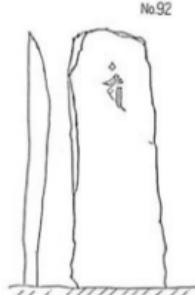
高さ：53cm 幅：18cm
厚さ：6cm 粘板岩



高さ：36cm 幅：20cm
厚さ：6cm 粘板岩



高さ：44cm 幅：16cm
厚さ：5cm 粘板岩



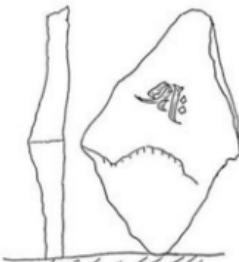
高さ：47cm 幅：16cm
厚さ：6cm 粘板岩

鑄錢關係史料目錄

所藏 石巻市教育委員会
目録作成

17. 賴金取號方
18. 江戸座敷會氏書記之寫
19. 鍋方寢覺
20. 天保六
（百文錢吹方）
（百文錢吹方）
文久三

No. 95



高さ：35cm 幅：22cm
厚さ：5cm 粘板岩

No 96



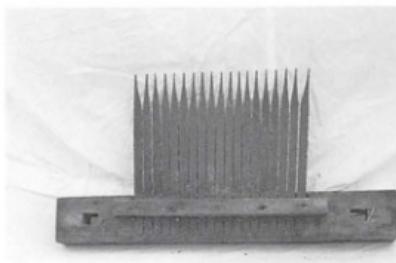
高さ：24cm 幅：10cm
厚さ：8.5cm 粘板岩



▲コヒキ



▲タコツボ



▲千歯コキ

急速な技術文明の進歩発達によって、社会は激しく変動しています。それに伴って生活や労働の形態も著しく変化し、昔から伝承されてきた慣習・習俗等はほとんど実施されなくなっています。

特に、生活や労働を支えてきた民具等は、その機能が失われるほど屑のように捨てられているのが現状ではないでしょうか。

石巻市教育委員会では、これら失われていく民俗資料や民具等について、昭和50年度から地区毎に調査収集を行い昭和59年度まで収集した民具等を整理し、目録を作成しました。収集した民具等は現在石巻文化センターに収集し保存しており、今後、文化センターの展示構想の中で展示等公開していく予定です。

調査収集・目録作成

石巻市文化財保護委員 鈴木東行

石巻地方民俗民具資料収集目録

整理番号	資料名	採集年月日	採集地(旧所有者)	備考
1	シロカキ機	昭53.10.26	水沼東沢(片岡伸行)	
2	"	"	" (" ")	
3	シロカキマンガ	52.10.12	南境(今野駒吉)	
4	手オシシロカキ	53.10.26	水沼東沢(岡東平)	
5	穂刈機	"	" (" ")	
6	ワラキキ機	"	" (" ")	
7	種マキ機(麦)	52.10.12	南境(今野駒吉)	
8	ヤセウマ	50.9.3	祝田(杉浦利恵兵衛)	
9	千歯コキ	56.8.24	真野日向(奥津芳男)	
10	"	54.7.24	水沼西沢(梅本安定)	
11	手オシ除草機	53.10.26	水沼東沢(片岡伸行)	
12	俵アミ機	"	" (森山慶弥)	
13	タワラケタ	"	" (" ")	
14	タレバカマ	"	" (片岡伸行)	
15	ヒッコミマンノウ	52.10.12	南境(松川慶記)	
16	"	54.7.24	水沼西沢(梅本安定)	
17	三本マンノウ	52.10.12	南境(今野駒吉)	

俵アミ具

石巻市文化財だより

整理番号	資料名	採集年月日	採集地(旧所有者)	備考
18	三本マンノウ	昭56.8.24	真野日向(松浦登代作)	
19	(箕)	52.10.12	南境(今野駒吉)	
20	#	51.10.15	田代浜大泊(津田善左衛門)	
21	トウフバコ	51.10.15	田代浜大泊(相沢精一)	
22	スゲガサ	53.10.26	水沼東沢(森山慶弥)	
23	手オケ	51.10.15	田代浜仁斗田(阿部敬蔵)	
24	カマ台	53.10.26	水沼東沢(森山慶弥)	
25	ガンドウ	52.10.12	南境金沢(日野晴光)	
26	アンドン	51.10.15	田代浜仁斗田(尾形俊一)	
27	#	#	田代浜大泊(津田市治)	
28	ランブ	#	田代浜仁斗田(阿部三之藏)	
29	ザングリ	53.10.26	水沼東沢(岡東平)	
30	#	56.8.24	真野日向(閔はぎの)	
31	自在鉤	52.10.12	南境(今野駒吉)	
32	サンゴヒ(接)	53.10.26	水沼東沢(森山慶弥)	
33	ヒ(シオカマス)	56.8.24	真野日向(高橋政)	
34	ヒ	52.10.12	南境(棲沢隆雄)	
35	ハム	53.10.26	水沼東沢(片岡伸行)	
36	マングガ	56.8.24	真野日向(高橋政)	F~田用
37	フルウチ	53.10.26	水沼龜山畠(亀山やその)	
38	#	56.8.24	真野日向(松浦登代作)	
39	シロカキニグラ	52.10.12	南境(今野駒吉)	
40	自在鉤	53.10.26	水沼東沢(森山慶弥)	
41	除草機	52.10.12	南境(今野駒吉)	
42	筋車	#	南境金沢(日野晴光)	
43	キボネ	56.8.24	真野日向(高橋泰治)	
44	真綿力ケ	#	閔はぎの)	
45	火鉢	53.10.26	水沼東沢(岡東平)	
46	エサキリ	50.9.3	福貴浦(末永亀雄)	
47	モミドウシ	53.10.26	水沼東沢(岡東平)	
48	木ニグラ(シロカキ)	52.10.12	南境(今野駒吉)	
49	ニグラ	53.10.26	水沼東沢(片岡伸行)	
50	ホゴス	50.9.3	祝田(杉浦利惣兵門)	
51	ナコウド	50.9.4	孤崎(平塚吉之助)	
52	アミシキダイ	#	#(閔はぎの)	
53	ナコウド	#	#(閔はぎの)	
54	糸ガエシ	57.8.20	折浜(平塚亥之助)	
55	ネリガイ	50.9.4	牧浜(阿部春雄)	
56	#	50.9.3	祝田(須田武治)	
57	カイ	57.8.20	折浜(伊妻辰成)	
58	サデ	51.10.15	田代浜仁斗田(尾形一郎)	
59	#	50.9.3	祝田(鈴木文吉)	
60	タモ	#	福貴浦(末永亀雄)	
61	#	#	#(高橋学)	

整理番号	資料名	採集年月日	採集地(旧所有者)	備考
62	サ デ	昭50. 9. 4	牧浜(山口源蔵)	
63	ナマコトリカギ	50. 9. 3	祝田(杉浦利惣兵衛)	
64	タ	〃	〃(〃)	
65	タコトリカギ	55. 7. 25	小竹(阿部力蔵)	
66	カ ギ	50. 9. 4	狐崎(平塚吉之助)	
67	ナ サ シ	51. 10. 15	田代浜仁斗田(尾形一郎)	
68	ハ モ フ	55. 7. 25	小竹(阿部力蔵)	
69	〃	〃	〃(〃)	
70	〃	〃	〃(〃)	
71	〃	50. 9. 4	渡波祝田(杉浦利惣兵衛)	
72	〃	57. 8. 20	折浜(相沢登代治)	
73	〃	50. 9. 4	祝田(杉浦利惣兵衛)	
74	ウ ジ	50. 9. 3	福貴浦(阿部昭寿)	
75	〃	〃	〃(〃)	
76	ナ カ ゴ	57. 8. 20	折浜(亀山祇)	
77	〃	50. 9. 3	祝田(阿部源三郎)	
78	〃	57. 8. 20	折浜(亀山祇)	
79	〃	55. 7. 25	小竹(阿部力蔵)	
80	〃	57. 8. 20	折浜(相沢登代治)	
81	〃	〃	〃(〃)	
82	ハモの延繩	〃	〃(亀山祇)	
83	カツギカゴ	〃	〃(〃)	
84	セ イ ロ	57. 8. 20	〃(平塚一郎)	
85	カニカゴ	55. 7. 25	小竹(阿部力蔵)	
86	ボーケカゴ	50. 9. 3	祝田(佐々木力)	
87	テツギネ(キネ)	57. 8. 20	折浜(相沢登代治)	
88	千本ギネ(キネ)	53. 10. 26	水沼東沢(岡東平)	
89	〃	〃	〃(〃)	
90	〃	57. 8. 20	折浜(相沢登代治)	
91	ハネゴ	50. 9. 4	牧浜(山口源蔵)	
92	ヒツコ	51. 10. 15	田代浜大治(相沢精一)	
93	ヨコヒツコ(ヒツコ)	〃	〃(〃)	
94	包丁サシ	〃	〃(〃)	
95	ツルベ	〃	〃(〃)	
96	ザルアゲダイ	〃	〃(〃)	
97	拍子木	53. 10. 26	水沼東沢(森山慶弥)	
98	コナヒキウス	51. 10. 15	田代浜大治(相沢精一)	
99	ヒキウス	〃	〃(〃)	豆腐用
100	ラシブ	〃	〃(津田光郎)	
101	露中信号器	〃	〃(津田いち)	
102	アバ	〃	〃(津田一雄)	
103	スノコ(資)	〃	〃(津田いち)	
104	コヒキ	〃	田代浜仁斗田(阿部三之藏)	
105	ハラミ	51. 10. 15	田代浜仁斗田(相沢幸雄)	

石巻市文化財だより

整理番号	資料名	採集年月日	採集地(旧所有者)	備考
106	アバ	昭51. 10. 15	田代浜仁斗田(相沢幸雄)	
107	サラ	〃	〃(〃)	
108	サカダル	〃	田代浜大治(相沢精一)	
109	フゴ	50. 9. 3	祝田(杉浦利惣兵衛)	
110	スカリ(ヤスカリ)	〃	福賀浦(阿部時寿)	
111	ノリダケ	〃	祝田(杉浦利惣兵衛)	
112	消火用ポンプ	〃	鹿立(平塚利右衛門)	
113	桑キリ包丁	52. 10. 12	南境(今野駒吉)	
114	糸トリ	〃	南境金沢(日野清光)	
115	消毒器	53. 10. 26	水沼東沢(岡東平)	
116	ロマワリ	〃	〃(〃)	
117	サヂ	50. 9. 3	祝田(須田武治)	
118	鉄ビン	〃	〃(杉浦利惣兵衛)	
119	ヒツコ	〃	〃(阿部政治)	
120	カキバサミ	〃	〃(佐々木力)	
121	エイジコ	〃	〃(阿部政治)	
122	(沖用手袋)	〃	〃(〃)	
123	ワタシガネ	〃	〃(鈴木文吉)	
124	アバ(ウキ)			
125	テングサカギ	50. 9. 3	牧浜(阿部久男)	
126	イシャリ	〃	〃(山田源蔵)	
127	ゴトク	〃	〃(阿部金三郎)	
128	ログイ	〃	〃(山田源蔵)	
129	イレハラ	〃	〃(〃)	
130	エナガ(ナガエ)	〃	〃(山口光男)	
131	ハエトリ	〃	〃(豊島富雄)	
132	弁当箱	〃	〃	
133	ホタテカゴ	〃	〃(阿部金三郎)	
134	タコカゴ	〃	祝田(佐々木力)	
135	シタナガカゴ	〃	福賀浦(阿部時寿)	
136	襪カゴ	〃	佐須(須田伊奈助)	
137	アワビカゴ	51. 10. 15	田代浜大治(相沢精一)	
138	シッヂコ(汁器)	53. 10. 26	水沼東沢(岡東平)	
139	高足ゼン	52. 10. 12	南境(今野駒平)	
140	ヒッコミマンノウ	〃	〃(〃)	
141	ディスガマ	50. 9. 3	祝田(杉浦利惣兵衛)	
142	タコツボ	〃	〃(〃)	
143	ノリス	〃	〃(〃)	
144	カツツア	〃	〃(鈴木文吉)	
145	手カギ	〃	〃(杉浦利惣兵衛)	大、小2個
146	セミ	〃	孤崎(阿部貞一)	
147	チンチヨ(タルカツギ)	〃	祝田(杉浦利惣兵衛)	樽運搬に用いる
148	(夜間標識)	〃	孤崎(阿部貞一)	
149	ナカゴ	〃	〃(平塚勁)	

整理番号	資料名	採集年月日	採集地(旧所有者)	備考
150	ナカゴ	昭51. 10. 15	田代浜仁斗田(尾形一郎)	
151	ヨコビツ	#	#(阿部三之丞)	
152	ハモド	#	(高橋学)	
153	ナコウド	#	(尾形一郎)	
154	ハモド	#	(#)	
155	リ	#	(尾形俊一)	3個
156	ナカゴ	50. 9. 3	福貴浦(阿部武夫)	タラハエナワ
157	リ	#	#(#)	ハモドハエナワ
158	リ	#	#(#)	タラハエナワ
159	カメ	#	牧浜(阿部与吉)	タコ釣用
160	アバ	#	#(山口光男)	(3個)ウキ
161	アバ	#	#(豊島義雄)	大(ガラス玉)
162	リ	#	#(#)	小(ガラス玉)
163	オワシ	#	#(#)	大
164	リ	#	#(#)	小
165	カツツ	#	#(阿部時寿)	染料
166	カワハギ	#	福貴浦(阿部金一)	
167	釣針	#	#(阿部雄)	マグロ
168	テンビン	50. 9. 4	#(高橋定義)	いか釣用
169	リ	#	#(阿部辰三郎)	#(ツメ4個)
170	リ	#	#(高橋善五郎)	#
171	リ	#	#(#)	#(ツメ8個)
172	ツノ	#	#(阿部定雄)	#
173	イシヤリ	#	#(阿部留治)	たこ釣用
174	リ	#	#(#)	#
175	テンゲサカギ	#	#	
176	バンドウ	50. 9. 3	祝田(阿部政治)	
177	テンゲサカギ	50. 9. 4	竹浜(平塚裕一)	
178	ハモド	#	#(#)	
179	ヘナとヘナ石	#	#(#)	ハモド延繩用
180	ハヤシ	#	牧浜(阿部金二郎)	
181	(並の)フタタ	50. 9. 3	#(豊島富雄)	
182	ハモド	51. 10. 15	田代浜仁斗田(尾形伊亮)	
183	リ			
184	ミズタル	51. 10. 15	田代浜大治(相沢精一)	
185	オミキタル	#	#(#)	小・記銘あり
186	リ	#	#(#)	大・#
187	ミズタル	#	#(#)	
188	トバアミダイ	#	#(#)	
189	ドバアミのツツロウ	51. 10. 15	#(#)	
190	オゼン	50. 9. 3	孤崎(平塚金吾)	サカゼン
191	リ	#	#(#)	#
192	リ	#	#(#)	#
193	千両コキ	52. 10. 12	南境(今野駒吉)	

石卷市文化財だより

整理番号	資料名	採集年月日	採集地(旧所有者)	備考
194	糸アキ(カセ)	昭52.10.12	南境(日野晴光)	
195	書類箱	〃	〃(梶原良興)	
196	メガネ	51.10.15	田代浜大泊(相沢精一)	
197	〃	50.9.3	祝田(杉浦利惣兵衛)	
198	アシナガ	51.10.15	田代浜仁斗田(阿部啓蔵)	
199	コヤシマンノウ	52.10.12	南境(今野駒吉)	
200	エジコ	51.10.15	田代浜大泊(津田忠雄)	
201	信号(赤)ランプ	〃	〃(津田いつ)	
202	カンバン布地	〃	〃(〃)	
203	ツノ	〃	〃(〃)	いか釣用
204	トウフバコ	〃	〃(相沢精一)	
205	〃	〃	〃(〃)	ふたつき
206	千両コキ	〃	〃(〃)	
207	沖	〃	〃(〃)	ペントウ箱
208	ミズタール	〃	〃(〃)	
209	ミソヘラ	〃	〃(〃)	
210	ミズタール	〃	〃(〃)	
211	オミキタール	〃	〃(〃)	
212	モロミクミ	〃	〃(〃)	
213	ハカリ・マス	〃	〃(〃)	2.5合
214	〃	〃	〃(〃)	1合
215	包丁	〃	〃(〃)	
216	〃	〃	〃(〃)	
217	コクク植	〃	〃(〃)	
218	ウキ・アバ	〃	田代浜仁斗田(尾形一郎)	刺網用
219	〃	〃	〃(〃)	〃
220	ヒノシ	〃	〃(阿部三之藏)	〃
221	テンビン	〃	〃(尾形伊亮)	
222	〃	〃	〃(尾形莊助)	
223	カメ	〃	〃(尾形一郎)	
224	オモリイシ	〃	〃(尾形莊助)	こしき用
225	イケスカゴ	50.9.4	牧浜(山口源蔵)	
226	ウキタール	〃	〃(山口岩男)	
227	シャコイケカゴ	〃	福貴浦(阿部惇)	
228	シタナガカゴ	〃	〃(阿部金晴)	
229	アミ筒(カゴ)	〃	〃(阿部与吉)	自製
230	チントヨ	〃	〃(山口源蔵)	〃
231	タラ縄ギバ(アバ)	50.9.3	〃(阿部菊次郎)	にら縄用
232	ミカラランプ	〃	〃(高橋学)	
233	テンビン	〃	〃(末永龜雄)	いか釣用
234	ツノ	〃	〃(〃)	〃
235	〃	〃	〃(〃)	自製
236	〃	〃	〃(〃)	〃(2コ)
237	〃	〃	〃(〃)	〃(2コ)

整理番号	資料名	採集年月日	採集地(田所有者)	備考
238	ツ	ノ 昭50. 9. 3	福賀浦(末永龟雄)	自製(3コ)
239	#	"	" (" ")	"
240	#	"	" (" ")	"
241	#	"	" (" ")	いか釣用
242	タコツボ	"	" (阿部義雄)	
243	#	"	" (阿部一夫)	
244	ナカゴ	"	祝田(阿部源三郎)	
245	ボラサシ網	"	" (佐々木力)	
246	#	"	" (" ")	
247	アワビイケスカゴ	"	" (杉浦利惣兵衛)	
248	イワイ(祝)ダル	58. 8. 22	月浦(高橋孝一)	
249	#	"	" (" ")	
250	湯トウ	"	" (" ")	
251	チョウシ(銭子)	"	" (" ")	小
252	チョウシ(銭子)	"	" (" ")	大
253	火消しガメ	"	" (高橋うめ)	
254	(テヅクロ)	"	" (大井西一)	防寒槽こぎ用
255	カギのソウ(カギツルシ)	"	" (阿部よし子)	
256	ロマルのダイ	"	" (" ")	ゴトクの代り
257	ツリ	"	" (" ")	自在釣の部品
258	火バシ	"	" (" ")	
259	火鉢	"	" (高橋孝一)	
260	書類箱	"	" (高橋福七)	
261	ツノキリ(イカリの)	"	" (大井西一)	
262	ウジイカリ	"	" (" ")	
263	鉄ビン	"	" (阿部義高)	
264	手アソビ	"	" (阿部よし子)	
265	#	"	" (高橋孝一)	
266	ロマール	"	" (阿部よし子)	
267	ネコアシゼン	"	" (高橋孝一)	
268	石油ランプ	"	" (大井西一)	西洋ランプ
269	釣針・バケ・トンボの釣針	"	" (相沢太郎)	姫釣用、ピンナガ釣
270	カサネドンブリ	"	" (高橋孝一)	3個1組
271	オミキスジ	"	" (" ")	
272	サカヅキ	"	" (" ")	
273	#	58. 8. 22	" (" ")	
274	ハエトリ	"	" (阿部義高)	
275	キユウス	51. 10. 15	田代浜大泊(津田忠雄)	
276	サンゴサカヅキ	"	" (" ")	
277	サカヅキ	"	" (" ")	
278	醤油サシ	"	" (" ")	
279	タンボアゲ	"	" (" ")	
280	ワク	"	" (" ")	
281	ウキダマ	"	" (" ")	3個

整理番号	資料名	採集年月日	採集地(旧所有者)	備考
282	アバリ	昭51.10.15	田代浜大治(津田忠雄)	
283	アゲ	〃	〃(〃)	
284	ナゲモリ	〃	〃(〃)	
285	棒カギ	〃	〃(〃)	
286	ウジ	〃	〃(〃)	
287	ノンコ	〃	〃(〃)	
288	メシザル	59.	〃(津田よの)	
289	〃	〃	〃(相沢武雄)	
290	ランブ	〃	〃(〃)	
291	豆ランブ	〃	〃(〃)	
292	ダイスガマ	〃	〃(〃)	
293	セイロ	〃	〃(〃)	
294	キネ	59.	〃(〃)	
295	ヨコヒツ	〃	〃(〃)	
296	テツキネ	〃	〃(〃)	
297	千歯コキ	〃	〃(〃)	
298	〃	〃	〃(〃)	
299	イシヤリ	57.8.20	折浜(相沢登代治)	たこ釣具
300	糸車	〃	〃(龜山和吉)	漁網用
301	ワラスグリ	〃	〃(龜山戩)	
302	イシヤリ	〃	〃(平塚太郎)	たこ釣用
303	プロック(帆巻き)	〃	〃(龜山戩)	
304	フヨ切板	〃	〃(相沢登代治)	
305	アバリ	〃	〃(龜山戩)	
306	〃	〃	〃(〃)	鮎の巾着網用
307	ログトイ	〃	〃(龜山戩・重五郎)	2コ
308	テングサカギ	〃	〃(〃)	
309	三本ヤス	〃	〃(相沢己代治)	
310	ホヤカギ	〃	〃(龜山健蔵)	
311	テンビン	〃	〃(龜山戩)	たこ釣用
312	〃	〃	〃(〃)	〃
313	センベヤキ	〃	〃(〃)	
314	クケダライ	〃	〃(龜山とし)	
315	ナ(縄)	〃	〃(相沢登代治)	
316	イリハラ	〃	〃(〃)	船具
317	〃	55.7.25	小竹	〃
318	〃	〃	〃	〃
319	ロスコ(ログイ)	〃	〃	
320	コナ(小縄)バリ	〃	〃	
321	イナダ釣針	〃	〃	
322	トツバ	〃	〃	鰐釣用
323	アゲ	〃	〃	編網用
324	アバリ	〃	〃	
325	〃	51.10.15	田代浜仁斗田	

整理番号	資料名	採集年月日	採集地(旧所有者)	備考
326	マグロ釣針	昭51.10.15	田代浜仁斗田(阿部久)	
327	ツノ	〃	〃	いか釣用
328	糸アキツノ	〃	〃(阿部久)	〃
329	トツバ	55.7.25	小竹	鰯釣用
330	アバリ	51.10.15	田代浜仁斗田	編網用
331	アゲ	〃	〃	
332	糸アキ	〃	〃	
333	ツノ	〃	〃	3個
334	アゲ	〃	〃	
335	アツギカゴ	57.8.20	折浜(亀山鐵)	
336	メグシ竹	〃	折浜(平塚賢之助)	加工(イワシ乾燥)8本
337	ヤス	〃	〃(亀山鐵)	
338	アシナガゾウリ	〃	〃(平塚亥之助)	
339	コシバス	〃	〃(亀山重五郎)	
340	アバリ	〃	〃	
341	テツカ・フゴザル・小刀	〃	〃(平塚亥之助)	栗の採集具
342	道具入れ箱	〃	〃(相沢登代治)	沖用
343	沖ベントウ(バコ)	〃	〃(亀山鐵)	
344	網ヨリキカイ	〃	〃(〃)	
345	ニシン刺網	〃	〃(〃)	
346	テンダーサカギ	〃	〃(平塚賢之助)	
347	キネ	58.8.22	月浦(新保吉太郎)	
348	縄ナエ機械	〃	〃(高橋孝一)	
349	ヤセウマ	59.	田代浜大治(相沢武雄)	
350	シロカキ機	〃	〃	
351	コヒキ	50.9.4	牧浜	
352	自在鉤	58.8.22	月浦(畠中福治)	
353	ニボシカゴ	〃	〃(高橋孝一)	
354	〃	〃	〃(〃)	
355	セイロ	〃	〃(〃)	
356	〃	57.8.20	折浜(亀山鐵)	
357	網ヨリキカイ	58.8.22	月浦(大井西吉)	カキ養殖用
358	コメビツ	〃	〃(〃)	
359	カスクダキ	〃	〃(〃)	製造加工
360	水ガメ	〃	〃(高橋うめ)	加工
361	ナガモチ	〃	〃(阿部よし子)	
362	モツコ	〃	〃(大井西一)	
363	カギ竹	〃	〃(阿部よし子)	
364	サカズキ	52.10.12	南境(日野晴光)	小
365	〃	〃	〃(〃)	大
366	タングボ	〃	〃(〃)	
367	ユード	〃	〃(〃)	
368	カタクチ	〃	〃(〃)	
369	ヒノシ	57.8.20	折浜(相沢登代治)	アイロン

石巻市文化財だより

整理番号	資料名	採集年月日	採集地(旧所有者)	備考
370	糸マキワク	昭52.10.12	南境(日野晴光)	
371	ワラジ	55.7.25	小竹	
372	トバ(カミ)ケタ	51.10.15	田代浜大泊(相沢精一)	No.188,189と組合せ
373	千本ギネ	"	" ("")	
374	マングク	53.10.26	水沼東沢	
375	千歯コギ	54.7.27	" (梅本安定)	
376	千歯コギとダイ	59.	田代浜大泊	
377	"	"	"	
378	足踏脱穀機	"	"	
379	"	57.8.20	折浜(相沢登代治)	
380	"	"	" ("")	
381	タテビキノコギリ	51.10.15	田代浜大泊(津田忠雄)	
382	セイロ	59.	"	
383	ナベ	52.10.12	南境	
384	タカゼン	53.10.26	水沼東沢	
385	カイセキゼン	52.10.12	南境(今野駒吉)	
386	ツヅラ	"	" (日野晴光)	
387	タンガラ	53.10.26	水沼東沢	
388	クワキリ(オシキリ)	52.10.12	南境	
389	ニグラ	53.10.26	水沼東沢	馬車馬用
390	"	"	"	一般運搬用
391	シロカキニグラ	"	"	馬用
392	"	"	"	牛用
393	エジコ	"	"	
394	千歯コキ	"		
395	ヒモゴ	56.8.24	真野日向(高橋りきよ)	
396	バンドウ	53.10.26	水沼東沢	
397	"	56.8.24	真野日向(高橋泰治)	小
398	"	"	" (奥津芳男)	大
399	ハントン	"	真野日向(奥津多恵子)	夏物
400	"	"	" ("")	冬物
401	"	53.10.26	水沼東沢	女子用
402	チャンチャンコ	"	"	
403	ハンテン	"	"	男子用
404	"	"	"	女子用
405	防火用ポンプ	"	" (岡東平)	
406	タコトリカギ	50.9.3	祝田(杉浦利惣兵衛)	
407	ワカメキリカマ	51.10.15	田代浜大泊浜	(舟から刈る)
408	"	"	"	("")
409	カツツア	50.9.3	祝田(杉浦利惣兵衛)	
410	ロ(船)	57.8.20	折浜(伊妻辰蔵)	
411	"	50.9.3	祝田(杉浦利惣兵衛)	
412	イカツリ竿	50.9.4	牧浜(末永留五郎)	
413	手モツコ	53.10.26	水沼東沢(森山慶弥)	

受贈図書

昭和61年1月～12月受領分

書名	著者・寄贈者	書名	著者・寄贈者
宮城の古民家	宮城県教育委員会	一般県道大島線改良工事に伴う 駒形遺跡発掘調査	気仙沼市教育委員会
宮城のカマ神（分布調査報告）	宮城県文化財保護協会	山王遺跡保存修理工事報告書	一迫町教育委員会
宮城県文化財調査報告書第111集 田柄貝塚 I 土器遺構 II 骨角 牙製品 III 土製品石製品	宮城県教育委員会	古文書調査報告書第1集	女川町教育委員会
同第113集 塩釜漁港第七次整備 計画及び沿岸整備特別会計事業 関連開発調査報告（新浜遺跡）	"	多賀城市文化財調査報告第9集 山王遺跡	多賀城市教育委員会
同第114集 今熊野遺跡II（縄文、 弥生層）	"	同第10集 山王遺跡	"
同第115集 真理町細木貝塚（黒 森沢砂防路工事関連調査報告）	"	同第11集 高崎遺跡	"
同第117集 七ヶ宿町小堀川遺跡 (遺物包含層土器編)	"	明治前期の瑞巌寺展	瑞巌寺博物館
同第118集 宮城町観音堂遺跡、 新宮前遺跡	"	瑞巌寺博物館年報	"
同第119集 若柳町柴の脇遺跡、 鳴瀬町里浜貝塚等（昭和60年度 詳略分布調査に伴う発掘調査報 告）	"	北上・和賀地方の絵馬展	北上市立博物館
同第120集 東北横断自動車道遺 跡調査報告書I	"	日本の美術 陶磁（中史編）	至文堂
昭和59年度 年報	東北歴史資料館	図説 発掘が語る日本史(1)	新人物往来社
研究紀要 第11巻	"	砂屋戸荒川館調査概要	鶴いわき市教育文化事業団
昭和60年度 年報	"	史跡根城跡発掘調査報告書IV	八戸市教育委員会
東北歴史資料館資料集16、馬場 塙A遺跡I	"	梁谷遺跡群発掘調査報告書	大宮市教育委員会
文書目録第三集（門傳家文書I）	"	東北原遺跡発掘調査報告書	"
" (" II)	"	大宮市遺跡調査会報告第15集	大宮市遺跡調査会
東北文化研究所記要第17号	東北学院大学東北文化研究所	同第16集 西太宮バイオミクスNo.4	"
" 第18号	"	島立南采遺跡	松本市教育委員会
白鳥省吾の詩とその生涯 歴博(15～19)	築館町教育委員会	竹洞・南原遺跡	"
小泊遺跡	国立歴史民俗博物館	梶浦渡遺跡	"
牡鹿郡萬葉改書上	河北地区教育委員会	島内遺跡群・上平瀬遺跡群	"
愛島東部丘陵遺跡群・遺跡詳細 分布調査II	女川町板崎山照原寺 名取市教育委員会	推定信濃国第四次調査	"
松山町の文化財第1集	松山町教育委員会	蓮台遺跡	"
		岡田西裏遺跡	"
		島立条里的遺構	"
		宮瀬本村遺跡（遺構編）	"
		いわきの城館跡調査報告書	いわき市教育委員会
		賀沼ウナギ生息地調査報告書	"
		いわきの条里制度構調査報告書	"
		北上川流域古代仏教の聖地 国見山極楽寺	北上市立博物館
		鹿沼市のぶんかざい	鹿沼市教育委員会
		いわき市埋蔵文化財調査報告書 弘源寺貝塚	いわき市教育委員会
		館報 第7号	埼玉県立歴史資料館
		海の絵馬展図録	大船渡市立博物館

▽第六号（昭和51年度文化財調査特集）

- 仁斗田貝塚の概観（鈴木政助）
金石文・経塚について（佐藤雄一）
平塚八太夫文書について（木村敏郎）
田代島の神社仏閣（三室宗議）
港草刈山所在古碑群の移転

▽第一号（田代特集） 昭和49年1月1日

- 石巻市市内文化財の現状（昭和49年5月10日）
埋蔵文化財の現状（木村敏郎）
石巻市板碑の現状（佐藤雄一）

▽第二号（特集・市内文化財の現状） 昭和49年5月10日

- 石巻市自然林（現状と保護について）（佐々木豊）
近世・近代資料の現状（石垣 宏）
住吉の旧木利家（高橋勇一郎）
石巻銭鉄場と齊太郎節（石垣恒夫）
根岸地区民俗資料調査報告（鈴木東行）

▽第三号（昭和49年度文化財調査概報） 昭和50年3月29日

- 高木音頭堂板碑群調査の概要（佐藤雄一）
近世の古文書（鹿立・平塚文書）（石垣 宏）
祝田民俗調査報告（鈴木東行）

▽第四・五号（多福院特集・昭和50年度文化財調査） 昭和51年6月20日

- 日輪山多福院の板碑群（佐藤雄一）
多福院文書・その他の文化財について（石垣 宏）
石巻市桶地方の地質（高橋清治・曾原祐東）
東浜地区生産民具（通邑）取集調査報告（鈴木東行）
桶井地区古文書分布調査（石垣 宏）
石巻の店舗（高橋英輔・高橋勇一郎）

▽第十号（昭和54年度文化財調査特集） 昭和56年3月31日

- 石巻市指定文化財について（石垣 宏）
水沼西沢地区民俗民具取集調査報告（鈴木東行）
銭鉄場資料（全局公用志）について（石垣 宏）

▽第十一号（昭和55年度文化財調査特集・小竹浜地区） 昭和56年3月31日

- 方孔石について（高橋清治・曾原祐東）
石巻市孤崎荘刈浜板碑群調査報告（佐藤雄一）
田代島平塚文書目録について（石垣 宏）
田代島民俗資料・民具取集調査報告（鈴木東行）

▽第七号（埋蔵文化財緊急発掘調査特集） 昭和53年3月31日

- 孤崎スケカリ浜遺跡の発掘調査（漁港開拓道路建設）
にかかる緊急調査（石垣 宏）
大浜遺跡発掘調査（木村敏郎）

▽第八号（昭和52年度文化財調査特集） 昭和54年3月31日

- 梨木烟貝塚の発掘調査（人管理葬業調査）
沼津貝塚の発掘調査（史跡標識設置部分発掘調査）

▽第九号（昭和53年度文化財調査特集） 昭和55年3月31日

- 南境地区の板碑（佐藤雄一）
木クゲンジの分布状況調査報告（佐々木 豊）
越田古道跡発掘調査報告（木村敏郎）
真野日向日影民俗資料調査報告（鈴木東行）
五松山洞窟跡発掘調査の概要（三室宗議）

▽第十三号（昭和59年3月31日）

- 小竹浜地区民俗民具取集調査報告（鈴木東行）
舟天鳥植生調査報告（佐々木 豊）
古文書分布調査報告（石垣 宏）

の文化財） 昭和57年3月31日

石巻市指定文化財について
板碑分布精密調査報告（佐藤雄一）

古文書分布調査報告（石垣 宏）

小竹浜地区民俗民具取集調査報告（鈴木東行）
舟天鳥植生調査報告（佐々木 豊）

古文書分布調査報告（石垣 宏）

小竹浜地区板碑（佐藤雄一）

木クゲンジの分布状況調査報告（佐々木 豊）
越田古道跡発掘調査報告（木村敏郎）
真野日向日影民俗資料調査報告（鈴木東行）五松山洞窟跡発掘調査の概要（三室宗議）
毛利コレクション所蔵文書（伊達家文書）（石垣 宏）

毛利コレクション所蔵文書（伊達家文書）（石垣 宏）

真野草原・舍那山長谷寺総合調査報告（その一）
植井大糞地区的板碑分布調査報告（鈴木東行）
月浦民俗民具資料調査報告（鈴木東行）
市内にある日本の重要な植物群について（佐々木豊）毛利コレクション所蔵文書（伊達家文書）（石垣 宏）
植井大糞地区的板碑分布調査報告（鈴木東行）
月浦民俗民具資料調査報告（鈴木東行）毛利コレクション所蔵文書（伊達家文書）（石垣 宏）
表示石柱・文化財説明板・石巻市の遺跡地名、
文化財めぐり・文化財講座・指定文化財・町町名、
表示石柱・文化財説明板・石巻市（佐藤雄一）

▼第十五号（昭和61年3月31日）

- 真野草原・舍那山長谷寺総合調査報告（その2）
田代島大泊民俗民具調査報告（鈴木東行）
田代島大泊民俗民具調査報告（鈴木東行）
柱・文化財標柱

事▼印は在庫が若干ありますので、ご希望の方はお申し出ください。

石巻市文化財だより(第16号)

昭和62年3月30日 印刷
昭和62年3月30日 発行

発行：石巻市教育委員会
石巻市日和が丘一丁目1番1号
電話（0225）95-1111 内線343

印刷：株式会社 鈴木印刷所
石巻市蛇田新谷地前121
電話（0225）22-4101